

ポクテム インフルエンザ A/B の概要

シスメックス株式会社 試薬開発本部 山口 温輝

はじめに

近年マスコミにも多く取り上げられているように、小児のインフルエンザ脳炎・脳症が大きな問題となっている。これらは症状が急速に悪化するため、迅速な診断が必要である。また、高齢者が多数入所している老人福祉施設等では、施設内でのインフルエンザの流行を早期に食い止めなければならず、風邪をひいた患者がインフルエンザであるのかどうかを早急に確認する必要性に迫られている。

数年前までは、臨床現場でインフルエンザウイルス抗原を検査することはほとんどなかった。これは、従来の検査法では検査に長い時間がかかり、迅速な治療方針の決定に結びつかなかったことが大きな理由である。

ところが最近、インフルエンザを取り巻く状況に大きな変化が出てきており、インフルエンザウイルス抗原検査に対する考え方も変わってきている。抗インフルエンザウイルス剤として、A型インフルエンザに対してアマンタジンが1998年11月に認可され、次いでA型、B型両方のインフルエンザに有効なノイラミニダーゼ阻害剤も販売されるようになった。さらに、インフルエンザ迅速診断キットの発売により、インフルエンザウイルス感染症とそれ以外を判別し、素早く的確な治療の選択を行うというのが医療現場での常識になりつつある。

今回、シスメックスでは「ポクテム インフルエンザ A/B」を発売する。この製品は非常に簡単な操作でインフルエンザ感染の有無をわずか20分で判定でき、A型/B型のタイプを判別することも可能である。以下に本キットの特徴に関して紹介する。

試薬の概要

1. 特徴

- 1) イムノクロマト法を測定原理とした迅速診断キットである。
- 2) 1回の検査でA型及びB型インフルエンザウイルス抗原を同時に区別して検出可能である。
- 3) 特別な装置を必要とせず、抽出試料を滴下するだけの簡便な操作で検査が可能である。
- 4) 約20分の短時間での判定が可能である。

2. 標準操作方法及び判定像

図1に標準操作方法及び判定像を示した。

操作は、抽出試料を調整しアッセイストリップに滴下するだけの簡便なものとなっている。

判定結果は、インフルエンザウイルス抗原が陽性の場合、判定部のAまたはBの位置にブルーのラインで表示される。

3. 簡易EIA法との比較

簡易EIA法との比較を図2に示した。本キット、ポクテムは操作が極めて単純で、同時に複数の検体を測定する場合等に適している。

まとめ

インフルエンザにかかった患者がまず訪れる開業医等の小規模な医療施設や病院の外来診察において、患者が診察室に入ってから、薬をもらって出るまでの時間は30分前後から長くても1時間程度である。インフルエンザの診断はその限られた時間内で行う必要があり、検査に時間がかかり過ぎると、患者を必要以上に拘束することになる。また多くの場合、

看護師の方等が、他の業務と平行して測定を行うことが考えられ、検査をできる限り簡便かつ迅速に行う必要がある。本キットは操作も極めて簡便で、操作ステップが少ないため複数検体の測定を同時に行うことも容易である。ポクテム インフルエンザ A/B はそんな現場の事情に即した設計となっている。

参考文献

- 1) 奥野良信, 他 : A 型, B 型の鑑別が可能なインフルエンザ迅速診断キット「ポクテム インフルエンザ A/B」の評価. 検査と薬学, 48 (5): 895 ~ 904, 2002.

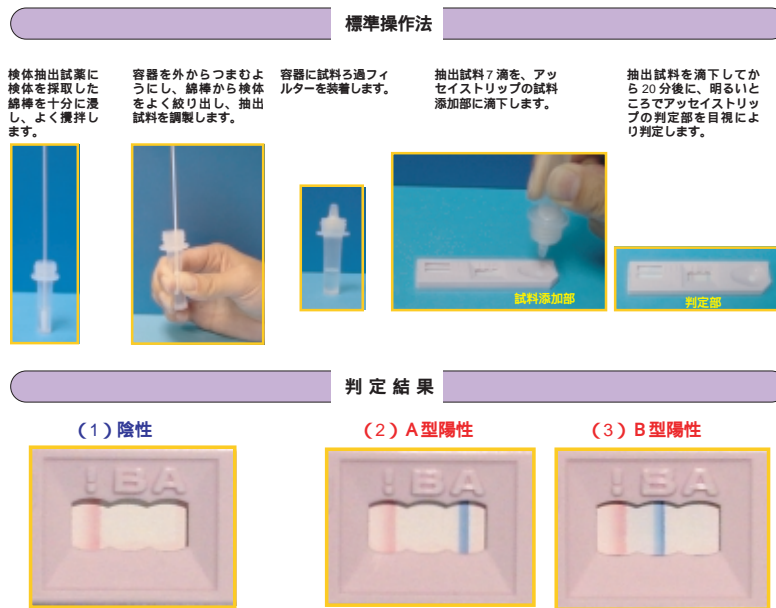


図1. 標準操作方法及び判定像

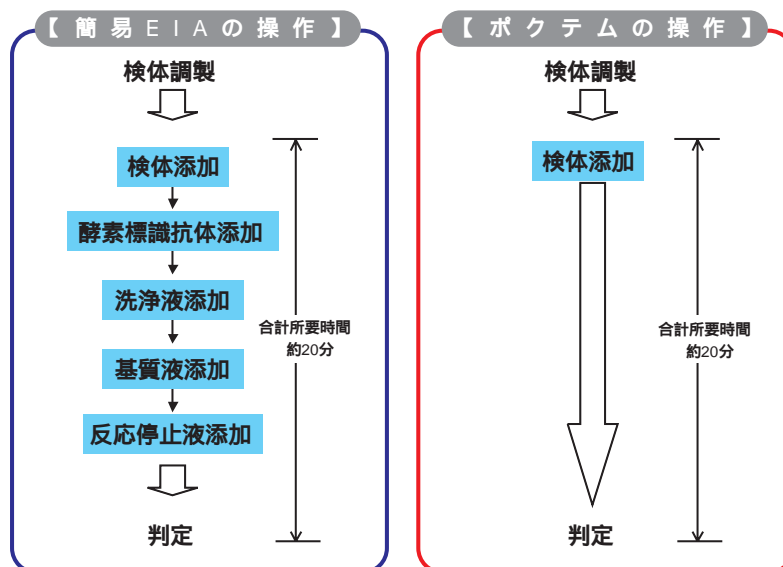


図2. 簡易EIA法との比較